

金融経済ナビ [指導のポイント]

まなぼう！金融経済 金融経済の基礎知識

1. コンテンツの目標・狙い

関心・意欲・態度

- 金融の仕組みと存在意義を認識し、お金の流れについて学習する。
- 金融の仕組みについて、身近な事例から政府・企業・家計のかかわりまで視野を広げて学習する。
- 直接金融と間接金融を比較することで、預金や株式、銀行や証券会社などについて調べようとする。

思考・判断

- 景気の話から、自分の家の経済状態を考える。
- 身の回りの状況や報道の情報などから、現在の景気が良い傾向か悪い傾向かを、自らつかむ(判断する)ことができる。

知識・理解

- 金融が果たす役割や、経済の主体となるものを言える。直接金融と間接金融の違いと特徴を説明できる。
- 経済の大きさを表す手段として GDP や経済成長率を挙げられる。景気やモノの価格変動について説明できる。

技能・表現

- 直接金融と間接金融のお金の流れの違いを、概略図で描くことができる。
- 「需要・供給」の言葉を用いながら、モノの価格が決まるメカニズムを図示できる。
- 価格が変動しやすいモノを考え、その理由や過去の推移などを調べる。

2. 指導の前提

- 公民の教科書の中で、金融や銀行、日本銀行などの役割について学習し、預金・貸出し・利子などの基本事項を学んでいること。
- コンテンツ「経済の仕組み」では事前に、教科書で市場や価格、モノの生産活動などを学んでおくことで、コンテンツの理解を助けます。

3. 指導・評価計画

コンテンツ	学習活動	指導の留意点:狙い(●)と評価(■)
(1)金融の仕組みと役割	<ol style="list-style-type: none">「いま欲しいものがあるか」「お金が足りない分をどうするか」を問う。借りるという手段に対し「金融」を出し、もし、金融が存在しなかったらどうなるかを考えさせる。預貯金をしているか問いかけ、そのお金が間接的に知らない誰かに貸し出されていることを認識させる。だれにお金が行くかを直接選べる金融に株式や債券を挙げ、直接金融の特徴を認識させる。	<ul style="list-style-type: none">● 金融を利用する動機やお金の動きを理解させる。● 経済の3主体がそれぞれ金融に関わりがあることを理解させる。● 直接金融と間接金融の違いを理解させる。■ 金融は経済発展に必要なことであることが述べられる。■ 経済の3主体を挙げ、金融のおかげで活動できることが言える。■ 株式/債券/借入れが、直接/間接金融のどちらなのか言える。また、直接金融と間接金融の違いが言える。
(2)経済の仕組み	<ol style="list-style-type: none">日本の経済活動をぜんぶ合わせたらどれくらいになるだろうかと問いかけ、GDP や GNP 等に関心を持たせる。景気が良い場合と悪い場合を、それぞれ身近な例から取り上げて、循環することに気がつかせる。野菜やサンマなど、価格が高騰する例を挙げさせ、モノの価格の決まり方やインフレ等を説明する。	<ul style="list-style-type: none">● 「GDP、GNP、経済成長率」の概念を理解させる。● 景気の良い状態と、景気の悪い状態の違いを認識させる。● モノの価格が決まる原理と、インフレ/デフレという現象を認知させる。■ GDP と GNP の違いが説明できる。経済成長率の高い国をいくつか挙げられる。■ 景気が良い/悪い時の、お金や消費の状況を説明できる。■ 需要と供給という言葉を使いながら、それがどういう関係において価格が変化するかが説明できる。インフレ/デフレ状況も合わせて説明できる。

4. 学習の発展

本サイト内コンテンツ「ウォーキング in 金融経済タウン」の、「銀行」「日本銀行」「金融庁」で、詳細および関連した知識が学習できます。

〈関連項目〉

まなぼう！金融経済	「債券の講座/株式会社と債券」「資産運用とライフプランの講座/資産運用とは、資産運用をする」
ウォーキング in 金融経済タウン	「銀行」「日本銀行」「金融庁」「株式会社」「証券会社」
動画教材「熱血ケーザイ家族！」	第11話「GDP って何？」の巻、第12話「景気はなぜ変動するの？」の巻
学校向け教材	「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」 「ケーザイへの3つのトビラ」